

こんなところに 市民憲章

1. 富士山のようにたくましく
働くよろこびをもち
健康な家庭をつくります

みなよ

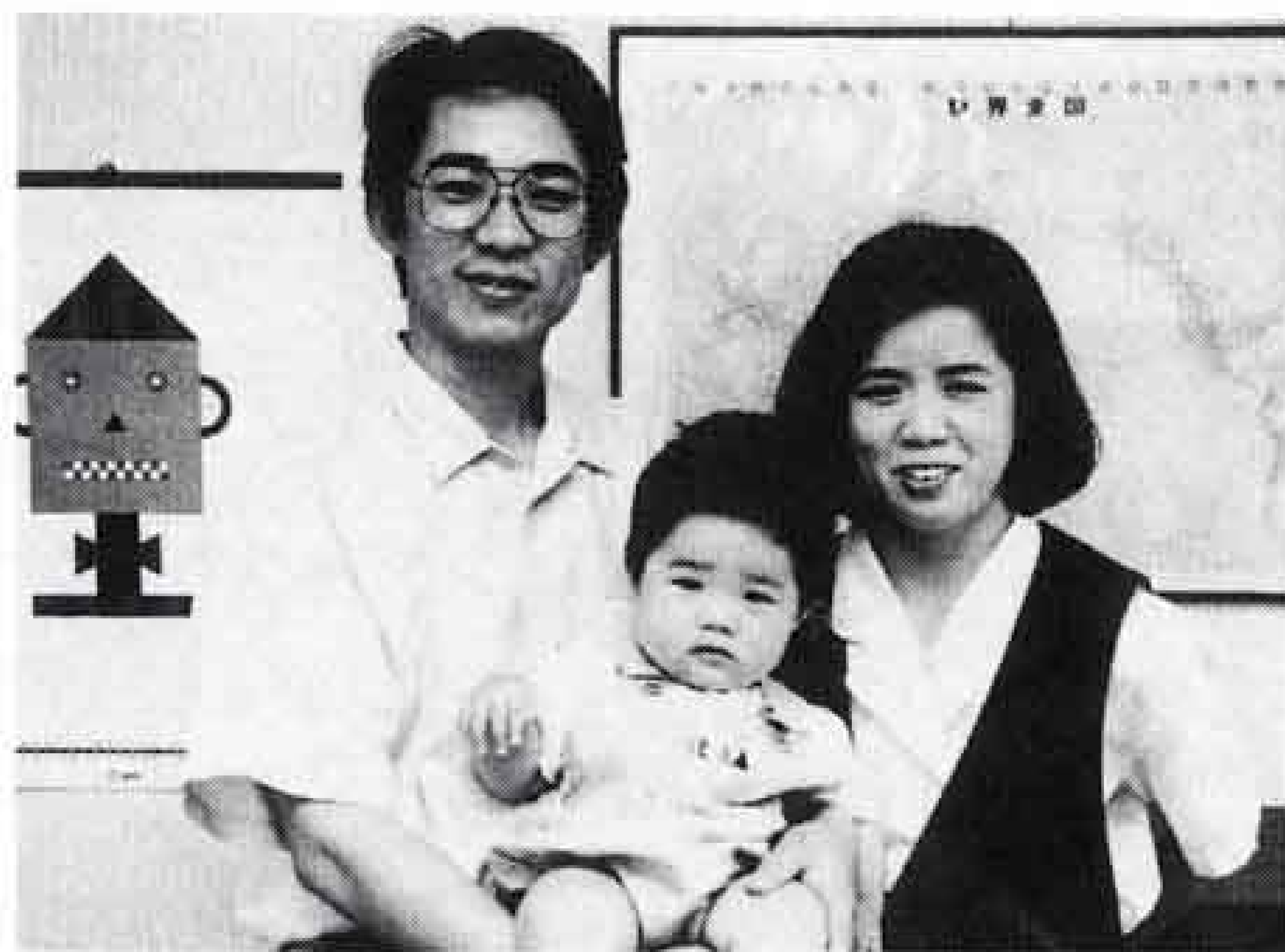
一人で悩まず51-3741へ



社会経験豊かな相談員が応じます

私たちの生活の基礎は、何といっても明るい家庭です。しかし、これから夏休みにかけては、青少年にとって誘惑が多く、悩んだり非行に走るケースもあります。そして、家庭にさざ波が起ることも少なくありません。

そんなとき、電話で相談に応じ、適切なアドバイスをするのが、「相談ふじ51-3741」です。相談者は青少年でも保護者でもOK。日・祭日を除いた毎日、正午から午後6時30分まで受け付けています。昨年度は、性の問題や友人関係など延べ1256件の相談がありました。どうぞ御利用ください。



△左から勝義さん、洋介君、あおいさん

三木ファミリーは、御主人の勝義さん（三十四歳）、奥さんのあおいさん（三十歳）そして、八ヶ月になったばかりの洋介君の三人です。

——加古川市はどんな街？

「人口が二十三万人、世帯数が七万世帯とほぼ同規模の市です。神戸市と姫路市の間にあり、ベッドタウンとして住宅が建ち並んでいます。また、デパートやスーパーもふえ、変わりつつある街です。昔からの工業地帯もあります」

女性に多い頑張り屋さん、 公害はもつと改善できるのでは。

〓 初めまして〓 市民一年生です〓

今回は、兵庫県加古川市から昨年七月に転職でみえた三木勝義さん（中里町三）のお宅におじゃまし、富士市の住み心地を伺ってみました。

——富士の第一印象は

「新富士駅のホームに降りたとき、今までかいたことの無いにおいと煙突から出る煙の量に驚きました」

——富士市の感想を率直に

勝義さん「一年中温暖で住みやすいと思います。よく働く頑張り屋さんが目につき、特に女性に多いのでは」

あおいさん「知らない街で不安でしたが、親切な人が多く安心していきます。皆さんつき合いが広いですね。買い物ではファッショナブルなお店があればと思います。また、うどんなど食事の味つけも随分違うので戸惑っています」

——行政への要望は

「加古川の方が住民パワーが強く公害に敏感です。加古川市役所の入口には企業地図があり、公害の規制値を一時でも超えると赤ランプが点滅し、衆人監視されています。白煙だってもつと解消されそうな気がするのですが…。それと道路が狭いのでは」

——ありがとうございます



祭りに仕掛けるとびの心意気
「富士地区とび工業連合会」
若とび会の会長

せり さわ ゆき お
芹沢行雄さん

(四ツ家・41歳)



祭りの男。

セクシャル・ハラスメントではないけれど、祭りはやっぱり男の世界。白いさらしに祭りばらんでん。酒のにおいと流れる汗。そんなイメージにぴったりなのが、芹沢行雄さん。富士地区とび工業連合会若とび会の会長です。

祭りを愛し、酒を愛し、愛する奥さんとも祭りで知り合ったとか。しごのり。

一番の売り物は「いきや」いなせ。芹沢さんたちは富士祭りに向けて最後の仕上げに余念がありません。はしごのりは、木遣り、まといとともに、とびに伝わる伝

統の技法。はしごの一番上で行う技「遠見」や「しゃち」。はしごの中途で行う技「谷のぞき」や「腕だめ」。ヒヤットとする、見せ場をつくる「肝つぶし」。それらの技をどう組み合わせ、どういった演技の流れをつくるかに苦しんでいます。

もちろん、若い演技者の身のこなしや気合いの入れぐあいにも、全神経を集中させます。何しろ、高さ七メートルのはしごの上。一瞬の油断も許されない緊張の連続です。

とびの心意気。かつて、建築現場の三役といわれ、妥配を振るっていたとび。名前もだんだん忘れさられ、危険な仕事に若い人も集まりません。しかし、生活の根っこの部分を支えているのが、とびの仕事。本物志向が要求されます。はしごのりは、ただ単に技芸を見せるものではなく、祭りに仕掛けるとびの心意気なのです。